

確定することとなっており、この号が会員各位の手元に届くころには、結果は確定していると思う。ただただ祈るような気持ちで待つのみであるが、千葉大学でこの話をしたところ、多くの学生が関心を示し、企画や運営に関わってもらえそうに感じた。社会全体が「包括的」にこのテーマを捉え、その推

進の主体・当事者として立ち上がることを期待する。協同労働と若者を結び、今の流れを社会化するためにも、労協連合会も脱皮のときを迎えているように感じる。その時期に、専務理事に就任となり緊張が体を覆っている。協同総研と会員のみなさんの支援を、切にお願いする次第である。

## 研究所たより 研究所たより

前号の「たより」で少し触れた、私の娘の市立保育所で、30年来続いている伝統行事である年長組の「お泊り保育」が夜間の安全が確保できないとの理由で5月に突如「取り止め」と市役所から一方的に通知された問題の続報です。

その後、私の保育所では緊急のアンケート調査を行った結果、全保護者の過半数がお泊り保育の継続を望んでおり、代替行事でも仕方がないとした人の2割5分を大きく上回りました。これらを取りまとめて、市内の全保育所(認可・無認可)の父母の会連絡協議会(連絡協)で、市役所と交渉することとなりました。

5月28日(土)に子育て支援課長と連絡協の話し合いが持たれ、市内各保育所から4、50人の保護者が集まりました。事前に連絡協から今回の取り止め決定について、かなり厳しく抗議する文書を出してあったので、取り止め理由や代替行事の内容など、保護者を説得する材料を準備してくるだろうと予想していたのですが、現れた課長(50代? 男性)は、基本的には、「子どもたちの命にかかわることなので、取り止めとした」とい

うだけで、何ら具体的な説明をしません。いろいろ質問すると、「文書を出すに当たり市長の決裁を受けたが、“説明責任を果たす”ことが決裁条件であったこと」「取り止めに当たり、周辺自治体の「お泊り」実施状況は(この4月に合併した)隣町の状況(「お泊り」をやっていない)のみを把握しているが、他の自治体について調査はしていないこと」「警察等にも安全問題を相談していないこと」「年度当初4月の時点では行事予定にお泊りを入れており、前年度のお泊り保育終了後も子育て支援課としては安全の問題について検討はしてきていないこと」などが明らかになってきました。

初めは静かな話し合いだったのですが、課長が「(取り止め)決定は変更しない前提の話し合いだ」と言い出し、次第に参加者から不満が出始め、一部の保護者からは猛烈なヤジが飛び出す展開となりました。私もなるべく抑えていようと思ったのですが、思わずかなり厳しい「詰め」をしてしまいました。とにかく課長は「子どもの命には代えられない」と言いながら、市立以外の私立認可園や無認可園のお泊り保育につ

いては、「設置権者が市ではないので、特に構わない」と発言し、結局市役所の責任回避のみを考えていることは明白でした。

結局、大勢で詰めまくって「市長や保育所長、保育士なども入れた話し合いの場を持つこと」「6月に予定されている代替行事については順延を各保育所に通知すること」「5月13日に出した保護者宛の取り止め通知文書は撤回すること」の3点を申し入れ、不承不承ながら翌週早々にも返答をすると回答を得ました。

今回の話し合いに当たり、個人的には市の次世代育成支援計画なども調べたのですが、その中には「市民の参加による計画の策定」や「子育て支援施策への行政と市民の連携」を意味する言葉が当たり前のように並んでいます。また、わが市の現在の合計特殊出生率は1.10で、ますます低下傾向にあります。高齢化が進む市としても子育て支援は重点施策であるはずなのに、このような姿勢の「子育て支援」課長が本気で子育てを支援しようとしているとは思えない、ということをも市民に強く印象付ける話し合いでした。

ともかく、第1ラウンドは押し切りました。ところが翌週の前半には、課長からの返事の代わりに、市立9保育所のうち、娘の保育所を除く8保育所が、保育所長と父母会長の「話し合い」で、お泊りなしの代替行事を行うという個別交渉が成立した、との知らせが連絡協から入りました。全市立保育所父母会の統一交渉をしている最中に、個別交渉を進めさせる市側の姿勢に怒りを通り越して唾然とする一方（それを受け入れる父母会長も問題も感じますが）、「すでに代替行事の準備を進めていて、いまさら変更したら楽しみにしている子どもがかわいそう

だから」という理由で親たちを説得する保育所には、子どもを人質にされているとも感じました。

幸いなことに私の保育所では、当事者である年長組保護者の多くが、何ともしも子どもたちにお泊り保育を経験させてやりたいと願っており、実現させることを前提に父母会で話し合いを続けています。ただ、保護者の中には、「あまりモメるくらいなら、お泊りはなしでもいい」とか「保育所の方針に反対してまではやりたくない」という人たちもいます。私は、前号にも書いた通り、偶然父母会長という立場に立って、この事態に巻き込まれているわけですが、正直に言っておよそ保護者を無視した市役所（というか課長）の方針決定と、それに唯々諸々と従う保育士たちの姿勢には、大きな疑問を感じます。リスクや安全の問題で、市が責任回避をする姿勢が、おそらく、行政サービスの「民営化」の推進を大きく後押ししているのだろうか、とも思います。

まだ、事態はどうなっていくか予断は許しませんが、いずれにしても市役所や保育所に任せきりにしたり押し付けているだけでは事態は解決しません。保護者たちがもう一度保育所での子育ての問題を自分たちの手に取り戻すことが必要なのだと思います。

その一方で、この間進んでいる、労協による公立保育所の運営受託の場合にも、行政と保護者の利害の対立はありうるわけで、労協の保育士集団がどのような立場で解決していくのか、も鋭く問われる問題であると感じます。

菊地 謙